

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス だんらん		
○保護者評価実施期間	令和7年 12月 8日		令和7年 12月 19日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	29名	(回答者数) 22名
○従業者評価実施期間	令和7年 12月 15日		令和7年 12月 19日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 1月 20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	法人内の協力・連携体制が整っており、事業所とは別に法人イベント(桜ウォーク、秋祭りもちつき)に参加している。また、敷地内に高齢者デイサービスが併設されている強みを活かし、世代間交流を通じた社会性の育成が期待される。	月数回の会議を通し、情報共有や相談体制を整え、支援方針の統一を図っている。高齢者デイサービス併設の環境を活かし、挨拶や交流の機会を意識的に設け、社会性の育成につなげている。	イベント参加の機会を増やし、色々な人との触れ合いの場を増やす。高齢者デイサービスとの交流を計画的に実施し、振り返りを通して支援の質向上につなげていく。
2	5領域に基づいた活動を継続的に提供し、児童の発達段階や特性に応じた支援が行えている点が強みである。今後は各領域のねらいをより明確にし、支援の質の向上を図ることが期待される。	5領域の視点を意識し、活動内容が偏らないよう計画・実施している。児童の特性や状況に応じて関わり方を調整し、職員間で情報共有を行いながら、実生活に結びつく支援を意識的に行っている。	5領域のねらいを明確にし、個別支援計画との連動を強化する。職員間の振り返りや研修を通じて支援の質を高め、地域資源を活用した活動の充実を図る。
3	家族会を開催し、保護者との交流の場を設けている。保護者と児童の状況を共有でき支援に繋げている。	送迎時に学校や保護者とこまめに情報共有を行い、家庭・学校での様子を支援に反映させている。相談しやすい関係づくりを意識し、支援の一貫性を大切にしている。	学校や保護者との情報共有体制を整え、支援目標の共通理解をめぐる。連携内容の振り返りを行い、より一貫した支援の充実を図る。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士の交流については、現在開催している年に1回の家族会だけでは、十分とは言えないため、交流の機会を増やす必要がある。	保護者同士の交流の場は、事業所が機会を設けるとい手段に限られることが要因と考えられる。	交流の機会を増やし、同じ悩みに対してどうアプローチしていくのか勉強する場を年間を通して計画し実施していく。
2	活動内容や利用人数によっては活動スペースが不足することがあり、環境面での工夫が課題となっている。	引き出し式扉や簡易的なパーテーションで空間を区切っているため、防音性や集中できる環境の確保に課題が生じている。	パーテーションの使い方や配置を見直し、活動内容や人数に応じた空間調整を行うことで、より落ち着いて活動できる環境づくりを進める。